

令和5年度

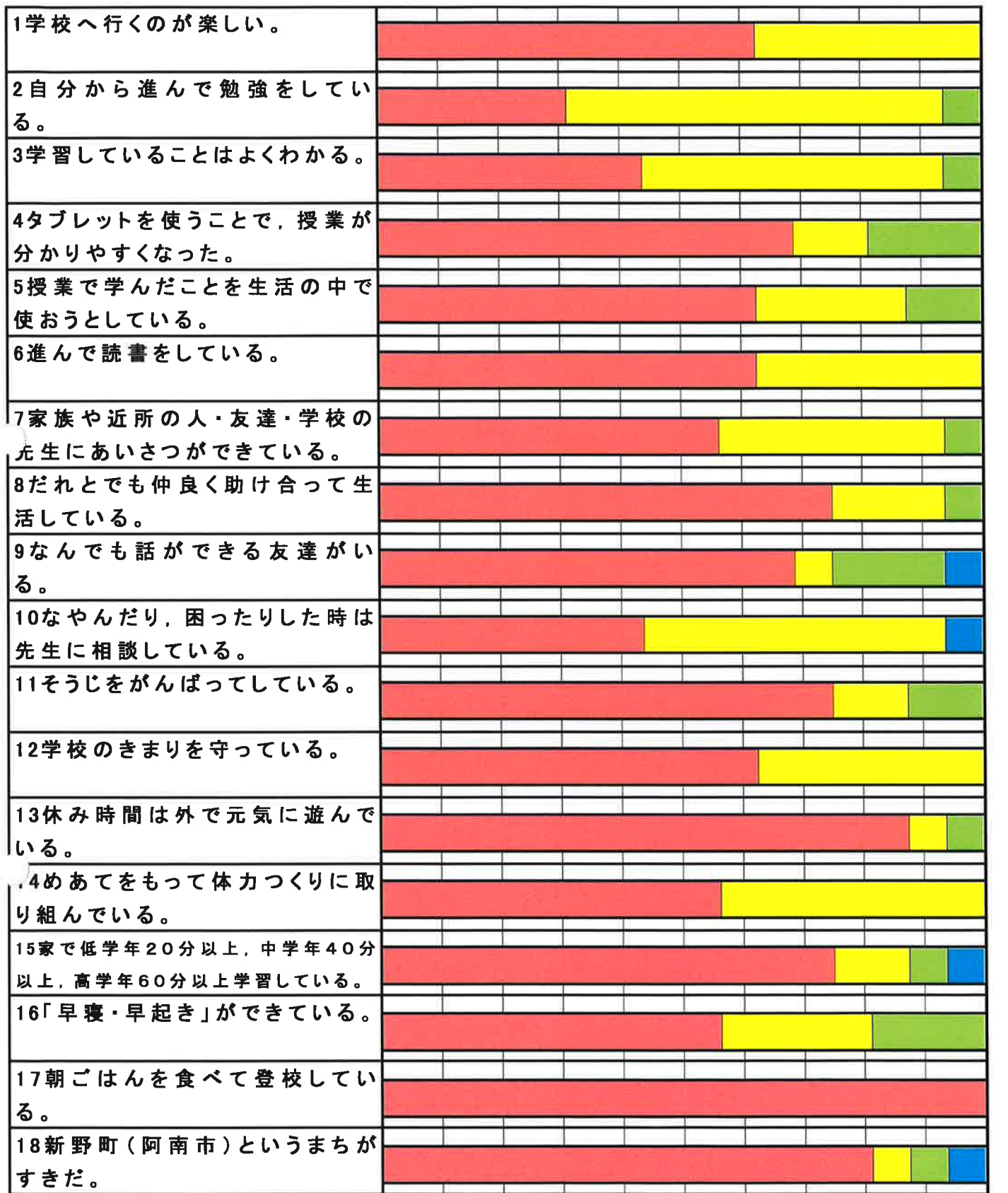
学校教育活動の評価



阿南市立新野東小学校

令和5年度 学校生活についての児童アンケート結果(グラフ)

新野東小学校 R6年1月実施

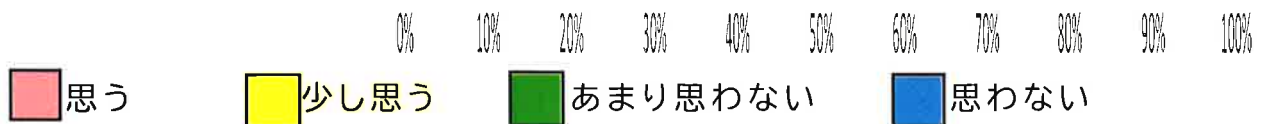
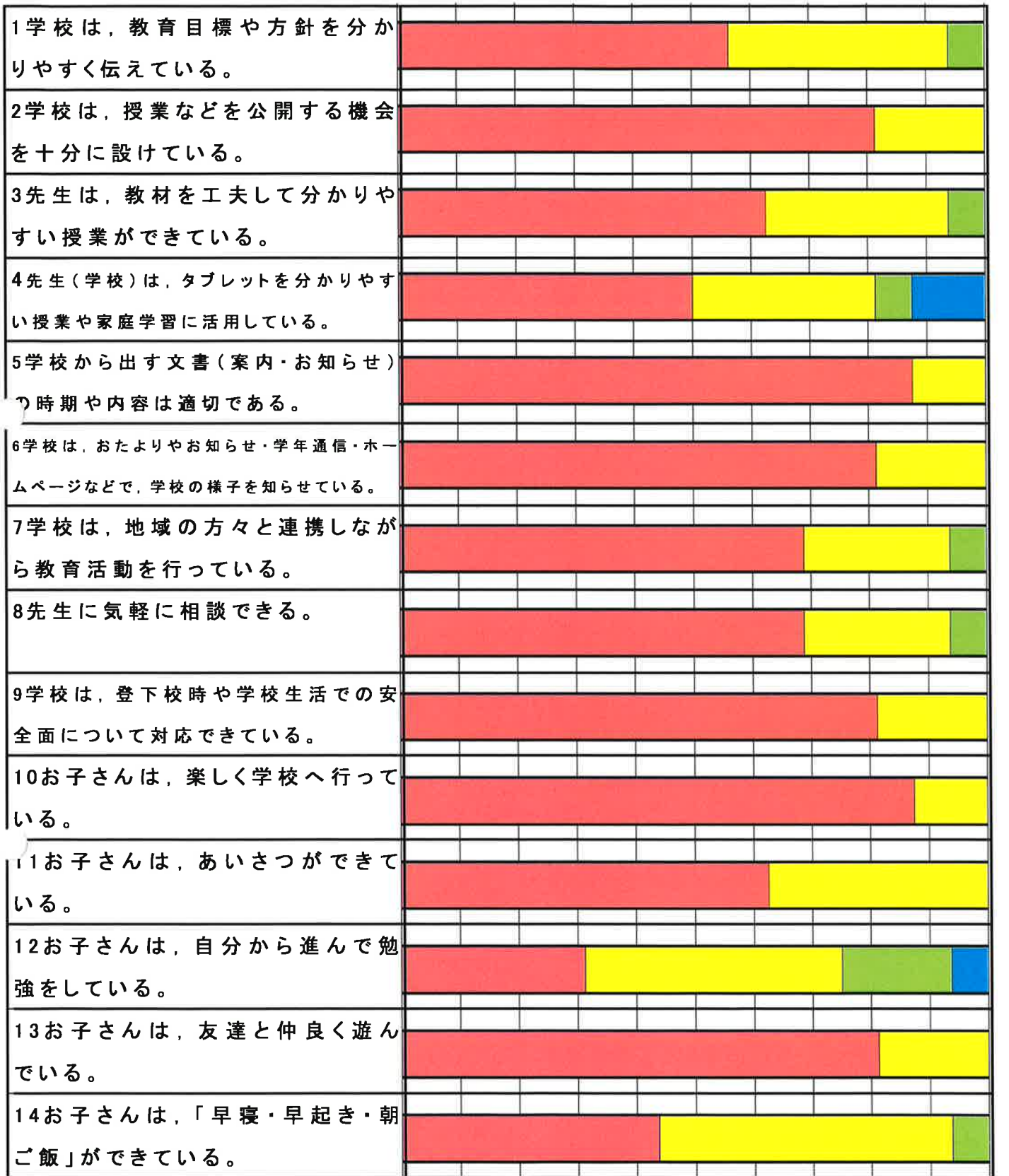


0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

思う
 少し思う
 あまり思わない
 思わない

令和5年度 保護者アンケート結果(グラフ)

新野東小学校 R6年1月実施



1 成果と課題について

児童

■成果

・「2 自分から進んで勉強している」の項目で、「思う・少し思う」が昨年度より23%増の94%となった。これからも、少人数のよさを生かし、個別学習を一層充実させられるようにしていきたい。

・「6 進んで読書している」の項目で、「思う・少し思う」が昨年度より25%増の100%となった。読み聞かせボランティアや図書館サポーター、読書タイムによる本に親しむ活動や図書室や学級図書の整理・充実による成果であると思われる。

・「10 なやんだり、困ったりした時は先生に相談している」の項目で、「思う・少し思う」が昨年度より33%増の94%となった。学校全体で「ポジティブな行動支援」に取り組み、一人一人を大切にす支援を心がけたためであると考えられる。

※ポジティブな行動支援とは、行動のきっかけを与え、積極的なよい行動を認め褒めることで、望ましい行動を増やす支援です。望ましい行動を増やすことは、困っている問題行動を減らすこととなります。

■課題と今後の取組

・「4 タブレットを使うことで、授業が分かりやすくなった」の項目で、「思う・少し思う」が昨年度より2%減の82%となった。学校全体でタブレットの使い方や使うタイミングなど効果的な使い方の工夫が必要である。

・「9 なんでも話ができる友達がいる」の項目で、「思う・少し思う」と回答をしている児童は、昨年度より9%増となったがまだ75%である。「あまり思わない・思わない」が25%おり、日常生活や道徳の時間に「友情・信頼」の指導を行っていききたい。

・「16 『早寝・早起き』ができていいる」の項目で、「思う・少し思う」が昨年度より22%増となったが、「あまり思わない」の回答が19%いる。家庭と連携しながら引き続き基本的な生活習慣の指導を行っていききたい。

・「18 新野町(阿南市)というまちがすきだ」の項目で、「思う・少し思う」が昨年度より8%減の87%となった。地域の人材や教材を活用した学習を積極的に行い、地域に対する愛着や誇りを育てる教育を行っていききたい。

保護者

■成果

・「5 学校から出す文章の時期や内容は適切である」「6 学校は、おたよりやお知らせ・学年通信・ホームページなどで、学校の様子を知らせている」の項目は、両方ともに「思う・少し思う」が100%となった。今度も、学校での生活や学習の様子を分かりやく伝えていきたい。

・「10 お子さんは、楽しく学校へ行っている」の項目は、「思う・少し思う」が100%であった。児童アンケートの結果でも「1 学校へ行くのは楽しい」の項目は、「思う・少し思う」が100%であり、子供たちが学校生活を楽しめていることが分かる。

・「14 お子さんは、『早寝・早起き・朝ご飯』ができていいる」の項目で、「思う・少し思う」が昨年度より19%増の94%となった。基本的な生活習慣に対して各家庭の取り組みの充実がうかがえる。今後も、家庭と学校との連携を一層深めながら取り組みを継続したい。

■課題と今後の取組

・「1 学校は、教育目標や方針を分かりやすく伝えている」の項目は、「思う・少し思う」が昨年度より2%減の94%となった。今年度の教育方針や取り組みについて重点化を図り、繰り返し保護者や地域住民に伝えていきたい。

- ・「2先生は、教材を工夫して分かりやすい授業ができている」の項目は、「思う・少し思う」が昨年度より2%減の94%となった。個別指導の時間が多いという少人数指導の利点を生かし、複式授業の短所を克服できるようICT活用など教材や指導方法の工夫改善を行っていききたい。
- ・「4先生(学校)は、タブレットを分かりやすい授業や家庭学習に活用している」の項目は、「思う・少し思う」が昨年度より19%減の81%となった。タブレットの使いづらさやタブレット学習の在り方について多数のご意見・ご要望もいただいております、特にタブレットによる家庭学習に対して不安視する意見が多い。今後は学校での授業と宿題を含む家庭学習でのタブレットの使用方法や使用場面を検討し、効果的なタブレットの活用となるように改善していききたい。
- ・「12お子さんは、自分から進んで勉強している」の項目で、「思う・少し思う」が昨年度より21%増となったが、75%と比較的低くなっている。ただし、児童アンケートの結果でも「思う・少し思う」が昨年度より23%増と同じ傾向が見られることから、今後も個別学習の充実を継続して行う。

2 来年度に向けての学校改善について

①学校運営について(家庭・地域との連携)

- ・来年度は創立150周年を迎える、また、学校再編についても検討が始まることも予想される。様々な課題に対して、学校の教職員だけではなく、PTAや学校運営協議会、地域住民や関係諸機関との連携を密にし、学校運営に関して様々なアイデアをそれぞれの専門的な知識や能力・適性を生かし、チーム学校として創意工夫を行い、地域とともに、地域に開かれた特色ある教育活動の展開を旨としたい。また地域教材や地域人材を活用した体験的学習を進めることで、ふるさとを愛し、ふるさとのに誇りをもつ子どもの育成に努めたい。

②学力および学習意欲向上に向けて

- ・来年度も阿南市の「外国語教育」指定研究事業を昨年度に引き続き受け、全校体制で「外国語教育」の充実を図る取り組みを行う。本来、小学校の「外国語教育」は3年生以上で行うものであるが、少人数の利点を生かし全学年で実施していることが本校の特徴である。特に、来年度はコミュニケーション能力の育成に焦点を当て、他学年や他校の児童、保護者や地域住民などいろいろな方と交流する機会を増やし、コミュニケーションの力を伸ばしていきたい。

- ・少人数のメリットを生かした「わかる授業」の展開こそ、学力保障と学習意欲の向上につながる。少人数学級では、児童一人一人の学習内容の理解度やつまづきを把握し、個別に対応していくことができる。そのような少人数のメリットを踏まえた「学力向上実行プラン」を作成し、きめ細かくて工夫ある教科指導を展開する。(「学力向上実行プラン」は学校ホームページに公開している)

- ・タブレットは導入から3年を経過し、教師や児童が日常的に使用し操作に慣れる段階は終了したと思われる。今後はより効果的な活用をめざしてタブレットの使用を精選する必要がある。そのため、授業中での使用場面や使用方法、家庭学習で使用するアプリケーションについて検討していききたい。また、情報モラルについての指導を全学年で段階に応じて行い、タブレットの活用が自主的な学習を進めるものになるようにしていきたい。

③学校の安全対策について

- ・学校前のバイパス道路は、歩道が整備されているものの、速度超過や追い越しをする車が多く、危険度は非常に高い。学校前の横断歩道での立哨指導や登校班の縦列歩行指導を継続して行うとともに学校、地域、家庭、諸機関が連携し、子ども達の命を守る取組を推し進める。
- ・地震や火災、不審者侵入時における避難訓練においても、様々な時間帯を想定して計画的に実施し、自ら命を守る行動がとれる児童を育成する。
- ・他地域での地震や豪雨などの自然災害から学び、南海トラフ地震や台風など身近な地域で予想される災害に備え、万一の場合にどのように行動するか危機意識をもてるように指導する。